



ヨシちゃん  
ひとりごと



ヤッパリ  
言ってみるもんや



37年間も、ホッ  
タラカシはアキマ  
ン民間なら絶対  
こんな勿体ないこ  
とをしないと書い  
た

先日、近くを通ると、其処が工事の下準備なされていた。その時は人の気配が無く、今日(3/28)その場所に行った。河原町通りに車が有り、工事をしているお方に居られたので、此処に、何が出来るのですか?とお尋ねした。喫茶店が出来ますのや、このお返事。そういうとあの記事を書いた当時やうと売却公示をなさっていた。どうやら37年目で売れたのだった。私のとんからりんの記事を見られた結果で売れた訳でない事は、承知の助だが、気が付いたことは、やっぱ言うてみるもんや書くことと改めて、私は達成感が味わえた。

去年7月10日のとんからりんで河原町塩小路の靴屋さんのとんつききの屋号の看板と、京都市電の架線修理専用車庫の事を掲載した。市電廃止後も、不要になつていた内浜(河原町七条上、東側に

有った。その後、37年間も、ホッ  
タラカシはアキマ  
ン民間なら絶対  
こんな勿体ないこ  
とをしないと書い  
た

通行で、良(悪い混入でジャンジャン)と入つて来る。意識的に、悪さをする奴が多くいて、気を付けんと大変な目にあう。が、言葉でもネットでも、場合によっては言つても駄目、書いても駄目なことも沢山ある。我が祖母は吐いた唾は、呑み込めない」と軽々な発言を戒めた。言つた一言で、首が飛んだ政治家も少なはな。私は、幼児の頃から祖母にこの子は諦めの悪い子や」と言われていた。うしても欲しい物は、手に入れるまで諦めず「おねだり」をしたからだろう。二つ子の魂百まで」と言うから、もう18年ある。これからも、宜しく。

稲荷山  
ぶらり散策記(18)  
越智薫史

伏見稲荷大社の参道には、鶉(うぐす)の焼き鳥を売っている店が多くあります。雀の焼き鳥と並んで稲荷名物です。とくに最近、鶉は有名です。一つ七・八百円程度で売られていますが、人気が高く一日二百本以上売れる日もあるそうです。無過疎は雀が多量に減少してしまいましたが最近捕獲量が減少しています。

深草・稲荷地域と言えれば反射的に鶉が浮かんで来るくらいです。現に児童館、幼稚園など公共物にもこの鶉を冠したものがたくさんあります。伏見稲荷山界わいど

菜の花からの伝言  
石動敬子



北海道新幹線開通が間近に迫ってきた。昨年の三月には、北陸新幹線が開通。その壮大かつ絶大なプロジェクトの規模は世界に誇るものであったのはもちろんである。あつたのにはなかなか行くチャンスがないだろうから、と仙台の女子高校時代の修学旅行は青函連絡船で当時「外地」と称された北海道南巡りだった。何とか遅れた教育界の見識だったか。しかし居心地の悪くなさな、この地に落ち着いてしまえば、日本はおろか、世界を見ずに終わってしまふそう、と考へ、開通したばかりの東海道新幹線で、京都にたどり着いた私だった。以て来五十年近い歳月がながれ、今や日本全土は陸続き。新幹線網が大動脈を成している。

今さらながら乾杯である。だから、ともかく会いに行きたい。5年前の震災で避難した弟に、高校時代の友人に、いまのうちに新しい時刻表を手にとり、いな事を思う三月だ。今日二三日は、如月(きさらぎ)の望月。彼岸過ぎまで、寒く、咲きだした桜も長持ちしそうだという。新年度のスタートも近い、この桜の咲く時期はことに、来し方行く末を思う時だ。

再び滅びそうだと語った。立憲という大きな先進的憲法の精神に見合うだけの国民の自覚と仕事こそ、実力が覚束ないものとは思うけれど、新幹線開通にこぎつめた、男たちのよるこびと誇りのように、日本という、この国の共同体の前進のために、よき仕事、良きプロジェクトが無数にあつて、多くの人と分かち合い、「一億総活躍」にこぎつ味でも上立つ政治家という人々の見識、政策が今一切に求められていると思う。

五條三位俊成卿墓道」という石碑が建っています。冷泉家では11月30日に、俊成卿のお祭り」を催すそうです。歌を供え、俊成が冬の枇杷の花が好きだったことから、この花も供えるところです。



稲荷山  
うぐす焼き鳥

# 京都&東山 ぶらりピカリ

68

## 七条通

大きく変わる  
しちじょうとおり



が有るのに、今度は近世の「鉄道博物館」がオープンする。どちらかと言えば二・四条より格下に見られていた「通り」も日当たりが良くなって来て82才の私は嬉しい。平安時代は六波羅に「幕府」があり、平清盛の「邸宅」があったという、「梅小路」と言う雅な名前なので、なおの事。過つては「国鉄(現JR) 山陰線があり、列車が通る度に東西交通は分断された。(後 写真のようになった写真のようになった) それでも高く、道路はその分勾配が有った。何故、こんな事を書くかと言えば、国民学校四年生の頃、父は兵役、祖父は徴用(強制労働)。店は祖母が中心。塩の配給は近所の(その頃若者は兵役で居ない)お年寄りの酒屋さんと大八車で「梅小路」倉庫まで取りに行く。塩は重い、登り勾配では、必死で押さないと越えられない。12歳の頃に息が切れる思いをしたのだ。駄賃は水砂糖二つで。

この通りに「京都博物館」は既に「京」



シヤッタースピードは250km) カメラの繋がりで、学校は違うが2年先輩の高橋弘さんとお知り合になり、鉄道写真を撮りに歩いた。(上はネットで高橋さんの好きだった写真 未だ「鉄ちゃん(鉄道ファン)の言葉など無い時代。近畿地方の鉄道は殆ど行つた。写真屋の彼は「ライカ」確か1991。走行中の写真のバックリ。私の「ブレ」で、更に腕も感性の差が有つて話にならない。そして沢山あつたネガも全て捨て、勿体ないことをした。特に梅小路近く大阪ガス京都工場で使用されたいた機関車(弁慶か義経号)の写真が有つたのに!

「専売公社」に売却され「病院」が経つことになった。当時は「結核」は大病、隣地に修道小学校があり、大反対運動が起り、(20歳の私も参加)設けられない決着した。病院は閉鎖され今は外資系ホテルに改装中で、住居もその学区に移った。当時は別稿の「雲流れる果てに」の後5年余り政治運動に関わり貴重な経験を待た。「とんからりん」も、その経験で創っている。



戦後、中学生時代、写真部に入つた。父が「ウエルターペレル」と言う名のドイツ製のカメラを持っていた。

話を聞いて、ふと、その子の「重盛」邸宅跡と言われている「積翠園」の事を思い出した。1955年(昭30)頃庭園の一部が、



「専売公社」に売却され「病院」が経つことになった。当時は「結核」は大病、隣地に修道小学校があり、大反対運動が起り、(20歳の私も参加)設けられない決着した。病院は閉鎖され今は外資系ホテルに改装中で、住居もその学区に移った。当時は別稿の「雲流れる果てに」の後5年余り政治運動に関わり貴重な経験を待た。「とんからりん」も、その経験で創っている。

## 市電が走った 京都を巡る

62

福田静二



千本北大路から北大路通を東へ、

市電の旅は続きます。交差点付近は平坦ですが、ひと足、傍場場を出ると、北大路通りは急な下り坂となります。その急坂ぶりは、目で見てもはつきりと分かります。北大路通がやや右手に曲がると、車窓左手に朱塗りの鳥居と、「今宮神社」と彫られた石柱が見えます。付近に神社は見えませんが、交差する今宮前通を北へ行き、左手の京都立芝野高校を過ぎると、その奥に今宮神社の楼門が見えてきます。今宮神社は、平安中期の九九四年



バツに左大文字を見

船岡公園前に行く

に、京都に疫病が流行したとき、それを鎮めるために船岡山に疫神社を建てたのが起源と言われています。四月に行われる「やすらい祭」で有名です。京都二天奇祭であり、人々の厄疫を取り除き、健康長寿を祈る伝統のお祭りです。さらに有名なのは、参道に並んだ一軒のあぶり餅屋さんの呼び込み合戦ではないでしょうか。片や江戸時代創業、もう一軒は、なんと千年以上の歴史があるとか、市電時代から続く名物でもあります。北大路通りに戻って南側を見ると、こんもりした山が見えます。それが、まもなく到着する傍場場「船岡公園前」の由来となった船岡山です。



今宮神社の鳥居を見  
急坂を下る

桓武天皇が平安京に都を移すとき、中心線となる朱雀大路を設定するのに用いた基準点となつたのが船岡山で、ここから南へ朱雀大路を設けました。平安中期からは葬送地となりました。中世の兵乱の時代には要害の地となり、応仁の乱では、山名宗全がこの山に城砦を築くなど、戦乱の地ともなりました。山頂からは、西陣から北山にかけて一望できて、現在では山頂付近は公園化され、小さな音楽公会堂もあり、近所の方の憩いの場になっています。また船岡山には織田信長を祀った建勳神社もあります。現在の市バス停留所では、この建勳神社前を名乗っています。ところで、北大路通の急坂では、過去に市電の逆走事故も起こりましたが、最後のころですが、千本北大路に着いた市電は、ここから車庫へ向けて折り返すため、乗客を降ろした運転士が市電から降りて、電話で車庫との連絡を行います。しかし、ブレーキが甘かつたのか、運転士の乗っていない市電は、ゆつくりと坂を下っていきます。急坂のため、スピードはどんどん出ていき、途中、自動車をおね飛ばします。結局、市電は一キロあまり暴走し、堀川北大路の安全帯帯に激突し、やつと停車しました。乗客が乗っていないのが、不幸中の幸いでした。市電の負の出来事も持つ、北大路通の急坂でした。これも京都のひとつの歴史となりました。

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第百十話の④ 辛抱の辛抱

現在地に有った二軒屋を父から借りたが、元々酒問屋に使っていて事務所と倉庫しかない。物販には、改装しないと使い物にならない。それまで役員で勤めていた酒問屋会社の退職金は極僅か。家内の預金は『酒会社』の買収資金に全額流用しゼロ。金融引締め時代で銀行融資は駄目。国民金融公庫に三百万融資を申し込んだが、担保が無しで駄目と断られたが、日参で通った。ある日、上席融資担当官(巖氏)が面接して下さり、「何か担保は有りませんか」と同じ様に仰った。恐らく今日が最後の交渉に成ると覚悟して「担保はあります」と応えた。「それは何ですか?」私は、駄目元で「私の経験と情熱と決意の三つです」と告げた。「他に?」「有りません」と言った。「判りました明朝もう一度来て下さい」と言われた。翌朝何うと、「国金として例外中の例外ですが、三百万お貸しします。頑張ってください。」でした。(この欄裏にも?)

融資資金で、西側の家を酒販店、東側は「立ち飲み酒(後、東山めん坊)にした。父の代『酒問屋』で二度の整理で「飛びそうになつた土地家屋の場所『酒小売』が昭49.10.1



酒小売が昭49.10.1

復活できた。開店5日間特売で「酒・食糧品大特売」をした。当時は、酒組合等の申し合わせで「正価・販売」が守られた居た時代。想定以上の売上が出来た。開店三日目、吉田に住む祖母が来たが話す間もなかつたので、少し落ち着いた9日に行つた。祖母は、繁盛を喜んでくれて「ワテは貧乏やから、こんなものしかないとお祝いに、箒と棧掃いを呉れ。『お前の心の汚れ』も払う様にと付け加えながら嬉しそうに。祖父と二人で酒屋を始めた地で、孫が酒屋を復活し嬉しかったのだろう。翌10月10日は、開店以来初めての「休業日」ごろんとテレビを見ていると、二時過ぎ、祖母が死んだと電話が入つた。シマツタ!と思つた。(以下次号)

## 名にしおはば 月三



写真六角堂

作者は、自らに手繰り寄せた。珍しく恋を続けた。今までのものは何だつたのだから、うか?と考えてしまふほどだ。彼女が煌びやかな装束に包まれて現れたのは、四月の宴のこと。朗らかで堂々とした容姿に、私の心は奪われた。特子内親王。自らに右大臣という肩書がありながら、身分は天と地ほどである。御簾の外の者たちにとつて天皇家はそれほどのものだ。と、教育されてきた私にとつて衝撃的な出会いである。心を留めることができず、教えるに背いてその日の内に文を書き、

## 京都タワーのほつて 編纂後記 Fumiko Kakei



京都のシンボルといえ、京都タワー。私も東京から京都に到着する度に、必ずと見上げて見上げます。京都の方にとつて駅前で見上げる京都タワーは、ほつとする存在なのではないでしょうか。

京都出身のウクレレとギターのデュオ、フラーリーパッドにとつても、京都タワーは特別な存在。ツアーも多い二人にとつて、京都駅に着いたとき、京都タワーを見た瞬間こそ、帰ってきたという安堵感に満たされたようです。

そんなフラーリーパッドが以前、京都の誇るべきモノ・コトを勝手に宣伝しよう!というテーマで曲作りをした時に、真つ先に考えた曲題は「京都タワー」でした。当初は、お題は「京都タワー」で、インストゥルメンタル曲で、後に歌詞がつけられた。それが披露されてきた。フラーリーパッドの方に好評をいただきました。それが回り、ついにPRソングとして採用されることになりました。思い続けて5年。この間にいただいたたくさんのご縁のおかげで、フラーリーパッドの願いは実を結ぶ時がきたのです。

フラーリーパッドと京都タワーさんのCD化される「京都タワー」のほつて。京都タワーの展望室から見ると、パノラマを、踊りだしたくなるようなメロディで描いたこの曲は、京都タワーの公式PRソングとしてこれからは広く世に出て行きます。フラーリーパッドにとつて初めての歌入り曲でもあり、一人でも多くの方にこの曲を楽しんでいただき、京都タワーの魅力を知っていただければ本望です。

今までは歌のない音楽一本で活動してきたフラーリーパッドですが、これからは歌も音楽表現の一つとして取り上げ、京都の魅力を様々な音楽にのせて世界に発信していきます。

フラーリーパッドはそう考えます。音楽の力で人々を元気に。それがフラーリーパッドの願いです。

一週間後の夜更け、六角堂へと赴いた。六角堂は、貴族の間で逢引の待ち合わせ場所としてつかわれていた。私も彼女がここにきたら、私を受け入れてくれたことになる。さて、どうなるか。

空には半月が掛かり、星は薄雲の隙間を縫って輝いている。いつもは何人か遭遇するの。今宵は一人である。他の者がいればそれはそれで気が散るが一人といるのは恐ろしい。鬼の話も聞かされた。もう一時待たせよう。退散しよう。そう考えていた。ギイギイと、牛車の音が近くにきた。天皇家の紋が描かれている。これは、おともの者か一人しかいない。これは、もしかしたら。

「待たせたか?」横付けされた牛車の中から女の声がかえってきた。

「いえ、まさか貴方がきて下さるとは思ってもいませんでしたから。私に手紙を送るような物好きは、どんな者か見たかったから」と、女性にこのように言われる。なんと返せばいいか分からない。その内、牛車の中から小さな笑い声が聞こえてきた。

「まあ乗れ。良い所を知っている。私は姫に言われるまま牛車に乗る。屋敷の光に幻と疑う目を覚ました土が、かぬ証となつていよう。牛車の中で酒を酌み交わすことなく手繰り寄せていければ、このような結末にはならなかつたらう。いや、悔やむよりもここは、もう一度挑戦してみようか。」

私は筆を執つた。

名にしおはば逢坂山のさねかざら  
人にしられてくるよしもがな  
(おしま)

## 編集後記

▽先ず、お詫言。具合で、作成が遅れました。誠に申し訳ありません。校正のお手伝いください。方に廻さずお届けです。ご勘弁を。

▽学生時代、余り勉強せず、走り廻り、商売でも、大波小波で動く働いただけで、目を使わなかつた、今も「老眼鏡」を使わず読めます。が...

▽今先に置いた書類の位置を、ど忘れ等々。ヤツパリ歳には勝てないのかなあ。毎朝、4時半起き、乾布摩擦と体操し、お粥を食べて、出社身体は丈夫です。

▽経営者は、勤務ください。方より、沢山は働かないと駄目。マルクスをチョットだけ学んだので、チョットだけ「マルクス」の言を搾取をするブルジョアに成らない心算。

▽もし、マルクスさんが生きて居たら(他人でも)聞きたい。24時間年中無休で働く。コンビニ経営者「は、プロかブルか?」私達(大勢のコンビニ経営者)には其処が問題だ。

▽資本主義は、元々、インフレーションで栄えてきた。投下資産の膨張と大件費の上昇と物価昇の時間差と戦争で、マルクスは正しい。

▽兵器は大資本の美味いエサ。戦争で武器に投じて、破壊と殺人だけ。庶民には無関係。

▽はらばら、戦争が欲しいなあか? 敗戦翌年入学した立命館。月謝は15円?だった。10円以上持参は禁止。6年後卒業時は750円。6年で50倍。戦争中、お国の為買わされた国債はチリ紙。年度が替わり物価上昇、庶民泣かせインフレ到来か!。▽生きてる間、戦争は嫌や。